

未来のオリンピック選手に



ソフトバレーボール競技に夢になる常盤幼稚園の年長児

水沢・常盤幼稚園で特別教室

楽しさ、魅力アピール

日本バレーボール協会

水沢区の常盤幼稚園（柵山アキ子園長、園児91人）で8日、日本バレーボール協会主催の特別教室が開かれた。年長児29人が地元協会関係者から基本技術を教わり、楽しみながらソフトバレーボール競技の魅力に触れた。

協会は本年度、全国計9園で教室を開催。同協会は昨年末、同園にソフトバレーボールの公式球20個を寄贈し、競技人口の底辺拡大を図った。

同園での教室は、市バレーボール協会が担当し、及川洋会長（62）ら2人が指導。園児たちはレシーブやサーブを繰り返し、「お願い

します」「さあ来い」などと声を張り上げながら練習試合に励んだ。

大石莉緒ちゃん（6）は「みんなと一緒にできるからバレーボールは面白い。家でも練習して上手になりたい」と笑顔。柵山園長は「ボールが柔らかく幼児も安心して遊ぶことができる。ソフトバレーボールを日ごろの園活動に取り入れた」と話した。

全日本女子チームのセッター竹下佳江選手（34）がロンドン五輪で着用したジャージを及川会長が披露すると、園児たちは「知っているよ」と喜んだ。

及川会長は「少子化に伴い、バレーボールの競技人口も減少傾向にある。一人でも多くの子どもたちにバレーボールに親しんでもらい、将来はオリンピックを目指してほしい」と願っていた。